

# 令和6年度第1回岩手県中部保健医療圏地域医療連携推進会議 会議録（要旨）

■日 時：令和6年8月27日（火）18時～19時35分

■場 所：岩手県花巻地区合同庁舎 2階 会議室（花巻市花城町1-41）

■出席者：別添出席者名簿のとおり 47名

（委員出席25名、オブザーバー5名、病院関係者5名、事務局12名）

## 1 開会（中村次長）

挨拶（柳原保健所長）

本日は、本会にご出席をいただき、ありがとうございます。

お手元の資料のとおり、本日は3つの事項について協議いただくとともに、4つの項目について報告をさせていただいて、ご意見をいただきたいと思いますと思っています。

本日は時間も限られておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議題

本会議設置運営要領第2の2の規定により、柳原保健所長が本会の座長となり議事を進行した。

### (1) 協議事項

#### ア 岩手県保健医療計画（2024-2029）における圏域計画の重点的取組事項の取組方針等について

資料1に基づき事務局（管理福祉課長）から説明の後、次のとおり協議が行われた。

#### ○大平委員

私はこの会議に初めて参加しますが、脳卒中のモニタリング指標について、これは多分、リスクとなる高血圧とか糖尿病なども管理しましょうという話ですが、原因のかなりの部分が心房細動にあるらしいので、心房細動に関するモニタリング指標がないのは、脳卒中の管理をする上ではちょっと足りないのではと思われまます。

#### ○座長（柳原保健所長）

心房細動がリスクになるのは皆様御承知のとおりだと思います。

今回は、提案させていただいた新たに追加するモニタリング指標について、御協議をいただいております。

心房細動に関する指標を新たに付け加えるかどうかについては、技術的な検討を病院部会等で行う必要があるのではないかと思いますので、御意見としていただいた上で、部会において検討をさせていただきたいと思います。

**○吉田委員**

新たに追加するモニタリング指標で、周産期医療体制及び小児医療体制に、妊産婦アクセス支援事業がありますが、これは交通手段の補助などでしょうか。

**○高橋管理福祉課長**

こちらは県の補助事業でございまして、妊産婦の方が治療または分娩のために、周産期母子センターへ通院もしくは入院または近隣の宿泊施設に待機宿泊する際に要する経費を市町村が助成する場合に、当該市町村に対し県が補助しているものでございます。

今回、管内市町の実施件数について、モニタリング指標に追加したいというものでございます。

**○吉田委員**

ありがとうございました。待機宿泊の実績のことですね。分かりました。

**○座長（柳原保健所長）**

モニタリング指標については、事務局から説明があったとおり、新たに指標を追加させていただいた上で関係機関にご照会するものと事務局で把握するものを整理した上で、第2回の本会議の際に、評価をして、御報告をさせていただく予定でございます。

圏域計画の重点的取組事項の取組方針について、御承認いただくということで、よろしいでしょうか。

（委員から異議なし）

今後、この方針のもとで進めさせていただきたいと思います。

**イ 地域医療構想の実現に向けた具体的対応方針について**

資料2に基づき事務局（管理福祉課長）から説明の後、次のとおり協議が行われた。

**○座長（柳原保健所長）**

具体的対応方針について、例年とおりの様式に基づいて各医療機関に記載等をお願いしていくという方針について承認をいただけますでしょうか。

（委員から異議なし）

この説明の内容で進めさせていただきたいと思います。

**ウ 医療法人工藤医院の増床計画について**

資料3-1、資料3-2に基づき医療法人工藤医院 間瀬院長から次のとおり説明が行われた。

**○医療法人工藤医院 間瀬院長**

医療法人工藤医院の院長を務めております間瀬と申します。

本日は、当院の増床計画につきまして貴重なお時間をいただきまして深く感謝申し上げます。  
資料の3-1に沿って説明をさせていただきます。

医療法人藤医院は1929年に開院しまして、今年で95年を迎えております。5年後には100年を迎えようとしており、古くから地域に根差した診療所として存在しています。

現在、妊娠・出産を柱とし、婦人科として思春期の若い女性から更年期・老年期まで女性の一生を支える診療を行っており、産科におきましては花巻市では唯一の分娩施設となりまして、ハイリスク妊婦を除く一般妊婦の出産について24時間体制で診療を行っております。

周辺地域の産科施設の閉院が相次いでおり非常に厳しい状況ではありますが、花巻市に限らず、北上市、遠野市、釜石市、奥州市からの妊婦も通院され、出産をしております。

現在15床で多床室が11床、個室が4床で運営をしております。

病床を増床する理由は、昨今、当院の分娩数は250件前後で推移をしておりましたが、令和5年は305件と増加をしており、当院で300件を超えるのは、10数年ぶりの出産数であり、令和6年においては分娩予定数を320件程度と見込んでおります。

中部医療圏のみではなく、盛岡や胆江医療圏からも妊産婦を受け入れ、そして花巻が故郷である里帰り分娩も受け入れをしているところです。

近年の傾向ではありますが、特定妊婦、そして精神的不安を抱える妊産婦が増え、産後の様々な保健指導の際には、大部屋多床室でありますと、プライバシーを守りにくいところがございます。プライバシーを確保した中で、指導していきたいという思いを持っております。

また、患者様も、産後個室を希望される方もおり、そうしたところから増床を考えた次第です。

さらに今後、産後ケア事業の展開を計画しております。2021年、国としましても、産後ケアが法制化をされ施行し、各市町村で行うようにということになっております。

現在、宿泊型等がございますが、施設の厳しさから宿泊型においては県内では今奥州市で1か所のみということになっております。産後も切れ目のない支援をするために、当院もこの宿泊型産後ケアを県内2か所目に何とかできるように、個室を増床したいと考えております。

続きまして当院が地域で担う役割でございます。

当院は、1次医療機関としまして、特に花巻市の方が62%の分娩であり、そして中部医療圏の妊産婦さんで86%の分娩を行っております。リスクの低いローリスクの妊婦を中心としていますので、母児の急変の際、ハイリスクの妊婦の際は、周辺の高次医療機関、周産母子センター、県立中部病院、そして北上済生会病院を中心として、御支援をいただいております。

婦人科診療における、最近の取組としまして、オンライン診療を令和4年から先駆的に導入をし、現在2年の実績を得ております。当院ではラインドクターというオンライン診療を用いまして、瞬時につなぐことができ、現在、釜石市、宮古市、盛岡市、奥州市といった患者様のオンラインにおける診療を2年間実践して参りました。

また、「異次元の少子化対策」ということが今叫ばれておりますが、産婦人科診療が縮小しますと、地域の衰退に繋がっていくことが取りざたされております。私たちも花巻市で唯一の周産期施設になりましたが、私たちの周産期診療が進んでいくことで、地域の発展に繋がっていくよ

うに、その使命を果たしていきたいと考えております。

最後に増床整備計画についてですが、当院は古い建物でございまして増床については新築・増築は行わず、一部部屋の用途を変更して現在の構造の中で病室を確保したいと考えております。

地域の貴重な1床であるかと存じますが、御了解いただけましたらば手続きを進めて参りたいと考えております。御検討のほどよろしくお願い申し上げます。

#### ○高橋管理福祉課長

資料3-3に基づき本増床計画に対する対応について事務局案を説明した。

#### ○座長（柳原保健所長）

医療法人工藤医院の間瀬院長先生から当該医院の増床計画の説明とその計画に対する対応案について事務局から説明をいたしました。ご意見、ご質問等あればお受けしたいと思います。

（委員からの異議なし）

それでは医療法人工藤医院の増床計画については、委員の皆様から御承認をいただいたということで、今後必要な手続きを本庁と連携して取らせていただきます。

## (2) 報告事項

### ア 紹介受診重点医療機関の取組状況について

#### ○座長（柳原保健所長）

当圏域におきましては令和5年度本会議において岩手県立中部病院と北上済生会病院が紹介受診重点医療機関として承認され、指定医療機関となっております。

その際、北上済生会病院につきましては、指定を受ける際の基準未達の場合は別の活用水準に基づいて指定したところであるため、毎年度、基準達成に向けた取組状況を報告いただくことになっているところでございます。

本日は、北上済生会病院様から基準達成に向けた取組を説明いただくこととしております。

#### ○福島委員

令和6年4月より北上済生会病院長になりました福島です。

私からは4月から行われている取組について、資料4にて説明させていただきます。

4月に赴任してから、病院の特徴として何が必要かということを改めて考え、やはり北上市を中心とした市民と共にあるという地域医療それを元に病院に対する体制について見直そうと考えております。残念ながら、資料4のとおり医療資源重点活用外来基準及び基準未達の場合の活用水準を達成するために努力したいと思い、以下の取組を行っております。

医療資源重点活用外来基準達成に向けて引き続き、紹介逆紹介を推進するとともに、以下の取組を行います。まず4月より、手術系の外科医が派遣され、外来化学療法の実施及び受け入れ体制の強化を実施しています。

さらに現在、乳腺がん担当女性医師が産後休暇から戻られて、常勤医師2名体制になっておりますので、昨年度より体制が強化されています。

令和5年度は56件だった化学療法に関しましては、現在4か月で既に45件と増加しておりますので、伸ばしていければと思っています。

紹介受診重点外来患者数の患者延べ数は昨年より253人多い2,620人、初診基準については1.4%伸び、指定要件の40%以上には届きませんが39.5%となっています。

また、クリニカルパスの作成により、紹介患者促進のために就任してから近隣の医療機関との連携を行うために色々を行いました。今後も各医療機関へ当院の案内を行い、更なる経営体制の強化を引き続き行う所存でございます。

また、基準未達の場合の達成水準となる紹介逆紹介につきましては、地域連携パスの推進、それから新たに外来部門といたしまして、周辺の診療科にないリュウマチ膠原病内科の医師を大学から1週間に1度の診療でございますが派遣いただき、将来の常勤化に向けて準備をしております。

このほか、この周辺にはないような特殊外来を準備しております。その1つに耳鼻科による先天難聴のお子さんを早期に発見して、通院することが非常に大事なので、その外来を設置いたしました。

また、昨今大きな社会問題になっています認知症物忘れ外来という形で、専門の医師を今、お願いして診療しております。

令和7年度につきましては、循環器内科医が大学の方から常勤を派遣していただくことになりましたので、いわゆる侵襲的な治療も含めて、当病院でも賄えるような体制を作っております。

引き続き紹介逆紹介率アップに取り組んでいるところでございます。

#### ○座長（柳原保健所長）

ただいま、説明いただいた内容について、御意見、御質問あればお受けしたいと思います。

#### ○吉田委員

ご説明ありがとうございました。

資料4の記載について質問ですが、令和6年度の4月から3か月から4か月の紹介率、逆紹介率は、どうなってますでしょうか。

#### ○北上済生会病院村上事務次長

北上済生会病院の村上と申します。

資料4基準未達の場合の活用水準については、令和5年度の実績というところでご報告させていただいております。紹介率、逆紹介率の令和6年の7月までの3か月の実績でございますが、紹介率が51.9%。逆紹介率が42.9%となっております。

○吉田委員

ありがとうございました。

2つとも活用水準を上回っているということでよろしいでしょうか。

○北上済生会病院村上事務次長

現時点では基準未達の場合の活用水準をクリアしているということになります。

○吉田委員

ありがとうございました。

○岩淵委員

福島先生は計画的に非常によく動いておられると思います。医師会の開業医にも、福島院長先生自ら個別に回られまして、いろいろな計画をご説明しているという状況を承知しております。

この特殊外来と申しますか、化学療法外来というのは、どういう経路でこのご紹介を(各医師会員に)申し上げたらいいのか、まだはっきり掴めてないです。

せっかく素晴らしいことをこれからやっていかれると思うので、その辺をもう少し、一般の我々のような診療所に分かるように浸透させていただければと思っております。

○福島委員

特殊外来について、確かに分かりにくいところはあり、4月から実施しておりますが、基本的には外部の患者さんに関しては地域連携室を通しての紹介となります。

○岩淵委員

分かりました。よろしく願いいたします。

イ 新病院「北上駅前病院」運営状況について

資料5に基づき北上駅前病院須藤病院長から説明が行われた。

○北上駅前病院須藤病院長

北上駅前病院の院長の須藤と申します。

私は盛岡市立病院に23年勤務しておりました。病院も院長も新しいですが、色々と御指導いただければと思います。

今日は、4月1日開院した北上駅前病院の状況についてご説明させていただきます。

資料5の1枚目に写真がありますが、北上駅の横にあり歩いて1分ぐらいで病院に着きます。

北上駅前病院と介護老人保健施設リハビリパーク北上と北上認定こども園の3つの施設が複合す

る施設ですが、本日は病院だけに絞って、説明させていただきます。

病院は5階建てで、1階が外来で2階3階が入院病棟で、200床、一般病床が50床、療養病床が150床ということで、総病床数が200床となっております。

現在は2階の一般病棟50床を稼働しておりますが、3階の回復期リハビリ病棟は、まだ稼働していません、2階の一般病棟50床で、運営させてもらっております。

200床のうちの一般病棟が50床で今開いておりますが、回復期リハビリテーション病棟、慢性期病棟と患者さんの増加に従って徐々にオープンしていくことを考えております。

入院の患者さんですが、基本的には回復期とか慢性期、一般病棟といっても急性期をやるわけではありませぬので、慢性期とかリハビリテーションがメインであり、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士と約30名を配置しており、脳血管疾患リハビリテーション料1と運動器リハビリテーション料1を算定しております。

リハビリする場所は、5階の最上階の見晴らしの良い場所に機能訓練室を作りました。

診療科目は、内科、脳神経内科と総合診療科、外科、整形外科、リハビリテーション科になっております。診療時間は9時から12時と午後は2時から5時になっております。

土日、祝日、年末年始が休診日で、お盆もカレンダーとおりに常勤医師3名で診療しております。

毎日当直と土日の日当直の医師については、岩手医大の外科の医局の方から派遣していただきまして、何とか日当直を行っております。

診療の体制ですが、追加資料のとおり、看護師が37名、薬剤師2名と放射線技師1名、衛生検査技師1名、理学療法士20名、作業療法士6名、言語聴覚士1名で行い、特にも脳梗塞の患者で嚥下できない方の訓練というのを何とか言語聴覚士を中心にやっていけたらと思います。

その他、管理栄養士が1名で医療相談員が1名となっております。

また、看護師については、確保が大変ですが、当杏林会が関係する看護専門学校等から何とか来ていただければと考えており、また、地元の方に来ていただければとも考えております。

入院の相談については、当院の地域連携室にファックスや電話していただいても対応します。

イーハトーブ病院はもう令和6年3月31日をもって閉院して、場所も花巻から北上に移動しましたが、全く医師も変わり、新体制になりましたので、地域の方々に可愛がっていただいて、医師会の先生方にも御指導いただいて、頑張っていきたいと思っております。慢性期の患者さんに対しては対応していきますので、ぜひご紹介いただければと思います。

### ○座長（柳原保健所長）

北上駅前病院におかれましては、開設に関する本協議会での協議の際、その開設方針の承認にあたって意見があり、毎年度、このように計画の進捗状況を報告いただくということになっておりますので本日も御報告をいただいております。

報告いただいた内容について、ご意見ご質問等あればお受けしたいと思います。

### ○齋藤委員

今日もこの会議の前に北上駅前病院を見て参りました。

どこに看板があるのか、どこから入ったらいいのかと思いましたが。北上駅電車利用の方は多分近いと思いますが、普通にコンビニの脇から入ってみました、どちらが正面かわからないでしまいましたし、令和5年度のこの会議の時に、駅が近く医師やスタッフが遠くからでも通勤できるっていうのが、メリットのような感じを受けました。医師やスタッフについて、同じ杏林会の医師を新幹線通勤できるのでとても期待していると記憶しておりますが、そのような状態で勤務している医師、看護師、スタッフ等はいらっしゃいますか。

### ○北上駅前病院須藤病院長

病院入口の場所が分かりづらいことについては、現在、矢印を作っております。また、駐車場も裏の方で分かりにくいので、看板等付けるよう頼んでいます。

医師については、現在、病棟病床利用率が低いので、まだ3人ですが、いずれ増やしていくにあたり、駅の近くは通いやすいので、医師のリクルートに関しては有利だと思います。

現状では、盛岡市から通っている医師が2人と北上在住の医師が1人です。

今後、医師を増やすにしても杏林会から医師を派遣するだけでは難しいので、大学病院等、色々な所にリクルートして派遣を考えております。その際にも駅から近く通いやすいことはメリットになると思うので、有能な医師をリクルートする上でのポイントにはなると思います。徐々に優秀な医師を雇っていきたいと思っております。

### ○吉田委員

北上駅前病院がリハビリ病院のということで、非常に期待しております。

2つ教えてほしいのですが、リハの提供体制に関しては、365体制（365日リハビリを行う、日を空けずにリハビリを行う）であるかと、現時点までの数値でどのぐらいの単位数が入っているか、その2点についてお願いします。

### ○北上駅前病院須藤病院長

リハ体制提供体制については、現在365体制ではございません。

今後、検討していくということになるかと思えます。

単位数につきましては把握してないところではありますが、後で回答したいと思います。

### ○吉田委員

次回の会議までには回答をよろしくお願いします。

### ○伊藤委員

花巻市健康福祉部健康づくり課の伊藤と申します。

資料5の5ページについて確認をさせていただきたいと思います。

回復期リハビリテーション病棟100床と慢性期機能の医療療養病床50床の年内稼働予定ということですが、具体的な時期が決まっていれば教えていただければと思います。

**○北上駅前病院須藤病院長**

回復期リハビリテーション病棟については、現在新型コロナウイルス感染症が流行し、病棟閉鎖などありますが9月1日からオープンする予定ではあります。

医療療養病棟につきましても、年内を予定して進めている状況です。

**○座長（柳原保健所長）**

回復期リハビリテーション病棟が9月1日で、慢性期が年内というような回答です。

それでは頂いた御意見を踏まえた上で計画の着実な進行をよろしくお願ひしたいと思います。

**ウ 地域医療構想のモデル推進区域について**

県医療政策室から資料6に基づき説明が行われた。

（委員からの質問、意見なし）

**エ 公立病院経営強化ガイドラインへの対応**

県医療局から資料7に基づき説明が行われた。

（委員からの質問、意見なし）

**3 その他**

特になし

**閉会（中村次長）**